

① 硫黄山噴火・河川白濁対策

硫黄山噴火に伴って河川が白濁化し、水質が酸性化するとともにヒ素などの高濃度の重金属イオンが検出され、稲作を主力とする地域農業・生活に大打撃を与える見通しであることが明らかになった。本学は、学長のリーダーシップの下、噴火後直ちに「宮崎大学硫黄山地域環境資源保全調査・対策チーム」を立ち上げ、地域関係機関と連携して全学体制で災害復興に取り組んだ。本学は、高千穂町土呂久公害やバングラデシュ、ミャンマーでのヒ素研究等、長年の豊富な経験等を活かしつつ、水質改善に関する研究・調査結果等を地域と共有して地域農業の復興に繋げた。

えびの市硫黄山噴火 (平成30年4月19日)



250年ぶりの噴火
噴煙は最高500メートルに達した

白濁した長江川



農家364戸
(269戸)が
稲作断念

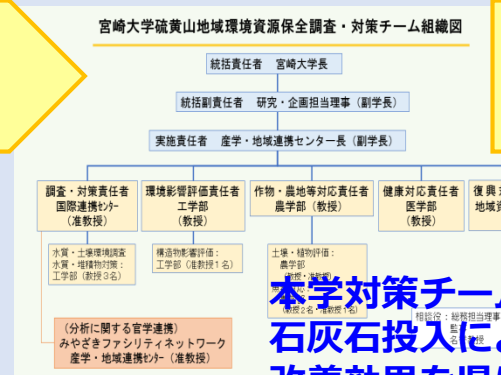
酸性化、ヒ素濃度上昇

硫黄山・河川白濁対策協議会 (平成30年5月16日)



宮崎県の対策協議会に
本学チームが主導的に参画

学長による
対策チーム
設置指示



水質調査
改善実験

本学対策チームが
石灰石投入による
改善効果を県に報告

長江川に石灰石投入 (令和元年5月14日)



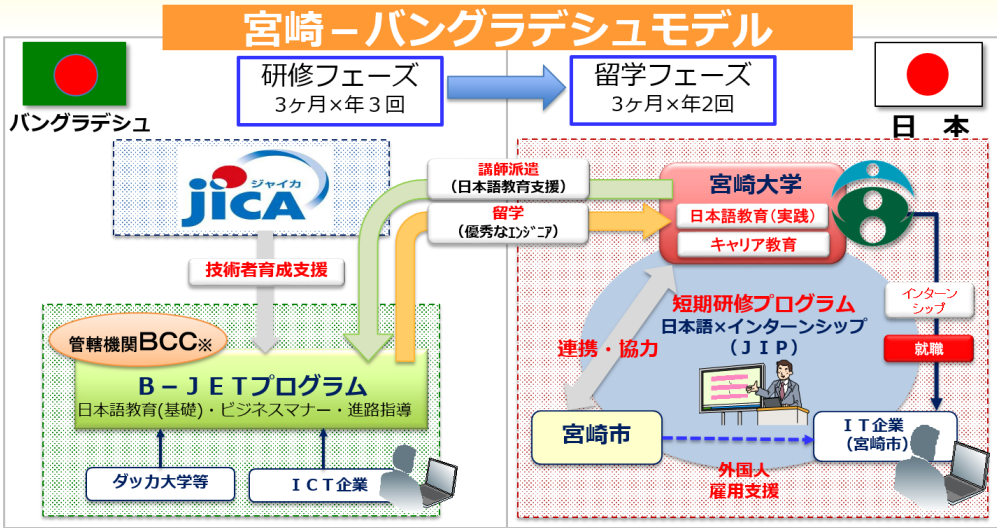
石灰石で水質改善
ヒ素除去に成功!

県が稲作再開の
検討開始!



②宮崎-バングラデシュモデル

JICA、ICT企業、宮崎市と連携した産学官連携事業において、バングラデシュICT人材の日本語教育やインターンシップ支援を実施。本学に留学した20名のうち全員が日本で就職し、そのうち16名が宮崎県内企業に就職した。



※バングラデシュ・コンピューター評議会 (バングラデシュ政府機関)

バングラデシュのICT人材を対象とした国内就業支援パイロットモデルの構築を目指す!



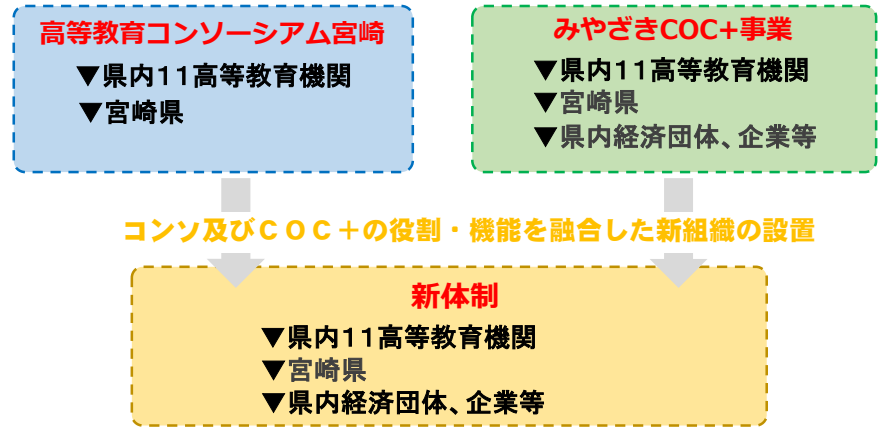
★就労希望者の受入による途上国支援
★外国人材支援による地域活性化



首相官邸HPより

③COC+事業の展開

COC+事業のこれまでの実績や持続的かつ発展的な取組を期待する意見を踏まえ、学長の特命によりCOC+事業の機能継続を検討するタスクフォースを設置。COC+と高等教育コンソーシアム宮崎の機能を統合した新たな体制により新事業・プロジェクトの創出を目指す。



フューチャーセッション

多様な立場の人を交えた“宮崎の未来について語る場”参加者が自由に対話し、アイデアを出し合い、実現に向けたアクションを起こすための議論を深め、宮崎の未来創生に必要な新規事業・プロジェクトを創出する。



④地域デザイン講座

地域デザイン講座主催の「宮崎TOPセミナー」や「宮大ふるさと探検隊」等の取組により各自治体との連携が強化され、H30年度は特に、都農町との連携に基づく新たな寄附講座の創設に繋がった（R2年度設置予定）。

★宮崎TOPセミナー：県内26市町村の首長が各地域の魅力を講演
H29年度4町村、H30年度13町村の首長が講演。令和元年度は市長編を開講



各自治体の魅力を発信し、本学との連携を図る

⑤宮崎アカデミーロータリークラブ

理事・監事等が発起人となり、宮崎県下の企業・団体役員と連携し「宮崎アカデミーロータリークラブ」を設立した。本クラブは、留学生修学支援及び学生のキャリア支援を行うとともに、大学活動に対して忌憚のない意見を頂く貴重な機会となっている。



★宮大ふるさと探検隊：学生目線による地域観光商品の開発



地域デザイン棟を活動拠点とし、例会を月2回開催

学外者の意見・アイデアを大学の教育研究活動等に活かす

